



東 北

のニュース

防災力向上障害者も積極的に 協会が訓練初参加 仙台

仙台市身体障害者福祉協会（大沼修会長）が、12日の市総合防災訓練に初めて参加する。障害者はこれまで、介助者が必要といった理由で訓練参加には消極的だったが、大地震発生時などは特別な配慮が必要とされる。このため自分たちの防災力向上につなげるとともに、災害弱者への支援の在り方を理解してもらおうのが狙いだ。

本年度の市総合防災訓練は、太白区の生出小・中学校で行われる。協会からは目や耳、足の不自由な人と、協会登録の手話通訳、朗読などのボランティアを合わせ、36人が参加する予定。

自分の存在を知らせる笛を吹いたり、携帯電話のメール画面を活用した意思伝達方法を試したりする。災害ボランティアセンターの開設訓練に協力するほか、ボランティアが付き添い、地震体験車「ぐらら」や煙の中を歩く体験などをする。

実際に自分たちでできる対応を確認し、どんな支援が必要かを他の参加者に知ってもらう。協会は今後、障害者独自の防災訓練も実施したい考えだ。

市が2001年に実施したアンケートでは、回答した身体障害者の約7割が町内会や施設などの避難訓練に「ほとんど行っていない」と答えた。協会は「聴覚や視覚の障害者は1人で参加するのが難しく、『会場がバリアフリーになっていないから、どうせ行っても』と思っている人もいる」と背景を説明する。

岩崎和也事務局長は「何もせず、障害者だから助けてというわけにはいかない。要望を反映させるためにも、積極的に防災活動に参画していくことが大切。今回をきっかけに、地域の防災訓練での参加も増えてほしい」と期待している。

2007年06月10日 日曜日